

シクラメンを題材とした魅力ある学校づくりの研究
～地域のシクラメン情報発信基地をめざして～

岡山県立瀬戸南高等学校

深井 徹・小見山昌夫・田淵保彦・布野 彰

1. 研究の動機

我が校のシクラメン祭りは 36 年目を迎えた伝統行事で冬の風物詩として定着している。お客からは翌年も咲かせる方法についての質問が多い。また最近では園芸種だけでなく「原種シクラメン」に関心を持つ人が増えている。以上の点に着目し、高品質のシクラメンを生産販売するだけでなく、地域の方々の関心に応じて生活が豊かになるようなシクラメン情報を提供しようと、3 年間生徒と共に 2 種類の研究に取り組んだので報告する。

2. 研究計画の概要

研究A 原種シクラメンの導入と展示

(1)シクラメンの里づくり (2)原種観察会開催

研究B 夏越し法の研究と情報発信

(1)夏越し法の実証試験 (2)夏越し講座の開催

3. 研究A 原種シクラメンの導入と展示

(1)原種シクラメンとは

原種は成長は遅いが長生きする特徴があり、地植えで自然繁殖が可能なものもある。園芸種には無い清楚な花と特徴のある葉も楽しむことができる飽きの来ない植物である。そこで原種 5～6 種類を校内に定植して地域の方が観察に訪れる場所を整備し、その魅力を伝えようと「シクラメンの里づくり」の活動を始めた。

(2)年次計画

- 1 年次；①原種の調査と導入 ②里づくり開始
- 2 年次；①里の充実 ②生育観察と栽培暦の作成
③シクラメン祭りでの公開
- 3 年次；①里の維持と充実 ②原種観察会の実施
③来客用のパンフレット作成

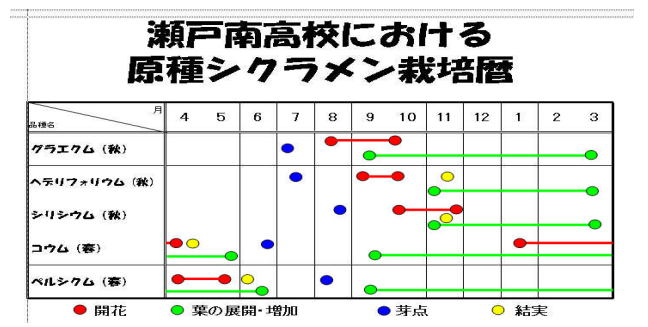
(3)実施経過

2005 年 5 月に里づくりがスタート。原種定植場所には、土手ぎわで荒れ地となっていた旧造園圃の一部を活用し、夏は涼しく冬は日当たりがよいトウカエデの下を選定した。園路を整備し客土を行い 10 月に 5 種類の原種を定植した。2 年目は栽培面積を拡大するため隣のムクゲの木の下を

整備し原種 4 種類を定植した。耐寒性に劣るペルシウムとグラエカムについては、景観を考慮して葡萄の剪定枝を編み霜よけを製作。種子による原種の増殖では、ジベレリン処理による休眠打破も試みたが失敗した。一方 2006 年 12 月こぼれ種による自然発芽を確認。2007 年 12 月中旬には前年度に勝る多数の自然発芽をコウムとヘデリフォリウムで確認し、自然繁殖に希望がふくらんだ。

2006 年秋には校外研修として原種シクラメン研究家横山直樹氏の講演会に参加（とっとり花回廊）。写真やデータを持参しヘデリフォリウムは夏の日当たりにも強いことなど、実際の経験に基づいた色々な助言をいただいた。

本校の原種の生育状況を紹介する。9 月、秋咲きのヘデリフォリウム、グラエカム、シリシウムが開花。開花に続いて出葉するのが特徴。9 月に開花を始める春咲きのコウムは 3 月に満開を迎え、4 月には園芸種の祖先ペルシウムが開花する。これら 1 年間の生育状況をまとめて本校オリジナルの原種栽培暦が完成した。9 月から 4 月まで長期にわたり開花を楽しめることがわかる。この暦は案内パンフレットに載せ観察会で活用した。



(4)原種シクラメン観察会

2006 年 12 月の第 35 回シクラメン祭でシクラメンの里を公開した。続いて春咲き種が開花結実を迎える 3 月（11 人）4 月（2 人）をはじめ結実期の 6 月（28 人）秋咲き種が狂い咲きをした 7 月（29 人）に地域の方を対象に観察会を開いた。清楚な花、特徴的な葉の形、結実と共に渦を巻く花梗、植えられている環境など、腰をかがめ

て観察しカメラに収める方がほとんどで、開花時期以外にも十分魅力があることが確認できた。アンケート結果を見ると、「原種シクラメンのファンになった」「自分では無理だと思っていたが見学して再挑戦しようと思った」など予想以上に好評で、活動に自信を持つことができた。



4. 研究B 夏越し法の研究と情報発信

(1) 夏越しとは

シクラメンは高温多湿に弱いので翌年も咲かせるには夏越しがポイントとなる。夏越し法のひとつは休眠法で、夏は葉をすべて枯らし水・肥料を与えない。もう一つは非休眠法で、夏は葉を残して涼しく雨の当たらない場所で管理する。

(2) 年次計画

1年次は、生徒自身が知識と技術を身につけるための実証試験。2年次は、地域の方を対象にした夏越し講座の実施。3年次は、講座内容の改善と充実を目標に年次計画を立てた。

(3) 実証試験の実施経過と結果(2005年・2006年)

2005年の非休眠法では温室内で50%の遮光をして成功し11月下旬に開花。2006年の非休眠法は温室ではなく一般家庭に近い環境条件で行い、開花はやや遅れ12月中旬となった。同年の休眠法は6月から強制休眠させ、9月に球根を洗って消毒する方法と根鉢を崩さず定植する方法を比較したが、何れも開花は1月と遅くなった。

休眠法は夏の管理が不要で楽だが秋から萌芽するので開花が遅れる。また根鉢を崩さず定植すると成功率が高い。非休眠法は開花はやや早い但し夏の病害虫防除が大変である事が確認できた。

(5) 夏越し講座の開催(2006年・2007年)

実証試験の経験を元に、2006年に地域の方を対象に小さな「夏越し講座」を計3回開催した。

第1回；6月14日、非休眠法の植えかえ。

第2回；9月20日、休眠法の植えかえ。

第3回；11月22日、葉組み。

非休眠法は植えかえ時期が遅れて根が傷んだため葉が黄化して多数失敗。一方球根で夏越しさせた休眠法は全ての株が順調に生育し、11月には葉組みを行った。休眠法で夏越しに成功した受講者の方からお礼の葉書と写真をいただいた。

前年の失敗の経験を生かして2007年は計5回の講座を実施。受講者は口コミで22名に増えた。

第1回；5月9日、非休眠法の植えかえ。

第2回；6月13日、休眠法は強制休眠。

夏越し中の管理。

第3回；9月12日、休眠法の植えかえ。

第4回；11月7日、葉組みと今後の管理。

第5回；1月16日、開花状態の観察評価。

第1回講座では、非休眠法の植えかえ時期を改善し根鉢を崩さないよう通気性の良い素焼き鉢に植え替えた。第2回の講座では、5月中旬から水やりを中止して予め強制休眠させた株を準備し、球根を傷めないよう枯葉を除去した。また、夏越し中の管理について説明した。受講者の夏後し株は概ね生育良好であるが昨年より蕾の生育は遅れている傾向があり、第5回講座で考察の予定。



5. まとめ

地域のシクラメン情報発信基地を目指して3年目を迎えた取り組みだが、小規模ながらもシクラメンの魅力や別の角度から見直すきっかけになっている手応えを感じる。去年のシクラメンを大切に育て、季節ごとの原種の変化を楽しむ、そんなシクラメンのある生活を、これからも地域の方々に少しずつ、しかし確実に提案していきたい。

